

徳島型水田農業の推進

高度技術支援課

ねらい

本県の稲作は農地の維持管理や、ブランド化された園芸品目の裏作としても大きな役割を持っている。これらの役割を維持していくためには、集落営農等の大規模な水稲経営体の育成が急務となっている。

また稲作経営の安定、米の需給・価格の安定を図っていくためには、主食用米から飼料用米をはじめとする非主食用米に転換する取り組みを継続することが重要となっている。

活動地域・対象

水稲大規模経営体

普及活動の目標

- 1 水稲大規模経営体の経営改善
- 2 栽培マニュアルの作成
- 3 飼料用米作付面積1,500ha

目標に向けた活動概要

1 安定販売で所得向上できる高温耐性品種の検索（現地実証）

- ・早生種として「てんたかく」、晩生種として「にこまる」の2カ所を実施した。



早生種「てんたかく」の現地実証



晩生種「にこまる」の現地実証

2 飼料用米専用品種の生産性向上（現地実証）

- ・飼料用米「オオナリ」の現地実証を3カ所で実施した。



実証ほ（石井町）



実証ほ（徳島市）



実証ほ（小松島市）

普及活動の成果

1 水稻大規模経営体の経営改善

- 水管理の省力化として「自動給水装置」ワタラスを試験導入しその効果を確認したが、エラーやトラブルがあり実質的な労働削減できなかった。
- P Fコンバインと自動直進機能付き田植機の実演では、労働時間の削減とはならなかったものの労働負荷は軽減された。
- スマート農業の導入を試みたが、総合的には経営の改善にはつながらなかった。



2 安定販売で所得向上できる高温耐性品種の検索（現地実証）

- 【てんたかく】
食味はコシと同程度であるとともに、高温耐性を持つため白未熟粒の発生はコシの21%に抑え玄米品質が優れており、1等米比率はかなり高まると思われる。一方、収量性がコシヒカリ(コシ)の比86%と低く、成熟期が1週間早いことから、再度検討が必要と思われる。
- 【にこまる】
食味はコシに比べかなり優れるとともに、白未熟粒の発生はコシの6%に抑えたことから「高品質良食味米」と言って過言ではないと考える。ただ、成熟期がヒノヒカリに比べ1週間程度遅いため、秋の病害虫や台風の被害リスクが高まると心配される。
- また、新しい早生品種「にじのきらめき」の導入検討も進められており、総合的に今後の方向を検討する。

3 飼料用米専用品種の生産性向上

- 県内3カ所で移植時期を5月、6月、7月にずらして現地実証した。いずれの区もあきだわらより玄米収量は高く、6月中までの移植が適していた。
- 一方、玄米品質は極めて悪く不稔の粃も多く見られた。オオナリを普及するには、この点を解決できる栽培技術を提案する必要がある。
- 来年度は、西南暖地に適正のある品種「みなちから」の現地実証を計画している。

用語説明

今後の発展方向

- 農業者からは早期米の高温耐性品種導入に強い要望があり、これに対応した活動を重点に置きます。
- 飼料用米の品種検索は継続して行います。

関係者からの声

- スマート農業による経営改善には、エラーが発生しない安定した機器へと改良が必要。これができないとスマート農業の導入は難しい
- にこまるは、品質と食味に優れるので作付け拡大を計画したい。早期米でも、このような特性の品種があると助かる
- オオナリは、収量は良いものの、暖地では本来の特性を発揮できていないように感じる

高度技術支援課

連絡先：徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel：088-674-1922